

## 所沢地域史グループ ワーク及び語り部 発表会

2018-3-5 記 小川 雅愛

■実施日時：2018年3月1日(木) 9:40~12:00

■場所：中央公民館

■参加者：28名(会員17名、所沢地域史発表 11名)

■発表者：第一部(10:10~11:10) 所沢市民大学第24期修了 所沢地域史グループの皆様  
第二部(11:20~12:00) 会員 池田 衛氏(語り部養成講座「ところ学」2期修了)

平成25(2013)年に当会(サークル)での活動・行事として始まったグループワーク発表会は今回の所沢地域史グループ テーマ「幕末の所沢地域と渋沢一族」の発表会で5度目の開催となりました。

開催日の3月1日は夜半から大雨、集合時刻には風雨がピークとなる今年一番の春の嵐予報に、グループの方に申し訳なく、参加者の集まりはどうかなどと戦々恐々としていました。幸いにも不安ははずれて、開始前には小雨状態、活動後はすっきりと澄みわたった青空が広がり、まるで本日の発表の維新前夜の混沌から、夜明けを迎える所沢のテーマを象徴するような日となりました。

昨年の市民大学グループワーク発表会とまったく変わらず、所沢地域史グループの皆様には全員の11名が参加していただき、大変に盛り上がりのある発表会を開催することができました。

上記のスケジュールにより、第二部では第18期のグループワーク発表から今日につながったと強調された池田 衛氏の発表を行いました。

## 第一部 第24期所沢地域史グループ発表 テーマ「幕末の所沢地域と渋沢一族」

昨年の発表会と同様に発表者が次々リレーする方式(これをK氏は駅伝方式とネーミング)と同じですが、違いは会の参加者全員がおそらく経験しているであろう25分の制限タイムを知らせる恐怖のベルが鳴らない事です。それだけに一層丁寧でわかりやすい語りと、パワーポイント映像による視覚効果で学びと研究の成果がヒシヒシと伝わってきました。発表の一部抜粋と感想を僭越ながら報告します。



発表のようす(ガイダンス部)

1. テーマ選定理由 「幕末期は今まで扱われなかった。昨年が慶応 3 年から 150 年、維新夜明け前にあたるから」

当会は今年の幕末・明治維新 150 年を会の活動の一つの指標にしているので、素直に共感できるところでした。また、所沢地域と渋沢一族との関連では“渋沢一族は県北”という固定イメージをうち消してもらって新鮮に感じました。

○幕末年表・渋沢栄一略歴・渋沢一族の血縁関係・組合村

ガイダンス的に視覚に訴えてあり、幕末期の所沢に村の結合した組合村という組織があったことなど、当時の実態をイメージしやすく感じます。

○所沢の物産品

「武蔵國郡誌による」所沢各村の詳細な物産品のデータを短時間でよくここまで調べられたと感服しました。当時の高価な取引製品 藍玉づくりの製造方法を丁寧に解説されました。江戸時代の山形での紅花から紅玉づくり（それを樽につめ京都の織物産地におくる）の製造方法と共通するのかなと一瞬、思いました。重松流 の創始者古谷重松は藍玉の行商をして生計を立てていたことを付け加えられましたが、高額な商品であったことがわかります。

## 2. 所沢地域に起きた事件

○武州世直し一揆 江戸時代の百姓一揆のグラフから始まり、一揆の実際を追った説明でした。昨年度サークル活動で講座を実施し、今年も名栗地域のフィールドワークを予定しているところでもあり、理解しやすかった。発表では武州世直し一揆の評価まで述べられ、まとめとして良かったと思います。

○勝楽寺事件 慶応 4 年に勝楽寺村に起きた生活の困窮した博徒集団による金品要求・恐喝事件。

この事件は大きな広がりを見せず、組合村内での努力で解決したようで、このような事件までよく調べられていました。それにしても所沢に博徒が多数いたとは知りませんでした。それに関して、ある高名な博徒がいて、それが所沢に住んでいるのではないかと県外の人がわざわざ所沢市役所に調査に来られたと過去の講座で聞いたことを憶えています。



発表会のようす （中盤）

○仁義隊分派撤兵隊が所沢村に移る

名主を人質に取り、身代金要求事件が起こったことが下新井の鈴木家に残された古文書が示されました。所沢市では江戸時代を含め、古文書が少ないために苦労されているように聞いていますが、古文書まで触れられ、素晴らしいと思います。

○精勇隊 名主を捕える。

新光寺や薬王寺が分派の拠点になったことなど、細かい点が良く調べられていました。

3. 彰義隊から分派した渋沢一族が振武軍を結成

○渋沢成一郎 尾高新五郎らはこの時期 変名を使っていた事実、所沢組合村からの献金額まで細かく調査されていて、徹底ぶりは見習わなくてはならないと思いました。

4. 振武軍と飯能戦争

○飯能戦争による所沢村の負担

振武軍ばかりでなく、新政府軍の進軍により大きな負担を強いられたことが具体的に数値が挙げられていました。

このグループ ワーク発表では事件や事象の裏付けとなる具体的な数値データが駆使され、信頼度を高める内容となっていました。また、都内の飛鳥山から奥武蔵の山中まで十分なフィールドワークを重ねられたように聞いています。さらに、幕末の所沢地域の社会・経済・政治の実態や出来事を丹念にとりあげ、渋沢一族の動向との関連を学ばれて発表していただきました。昨年10月のグループ ワーク発表前にまだまだ指導講師 渡辺隆喜先生のご指導上、クリアしなければならない課題が2, 3あるということをお方から聞きいていました。その時は何気なく聞きましたが今思えばなるほどと感じます。

## 第二部 ところざわの歴史語り部 「たのしく学ぶ 所沢駅の不思議」 池田 衛氏 発表



語り部 発表

この発表は生涯学習をすすめる所沢市民会議 主催の平成 29 年度 語り部養成講座「ところ学」～「ところざわ」を伝えよう～の第 2 期の研修を終えた成果を踏まえて発表していただきました。

池田氏のご存じの方も多いかと思いますが、第 18 期のグループ ワーク「所沢の鉄道 116 年 13 の停車場物語」発表がスタートで、その後、会の活動とともに、地域への貢献、還元を心がけられて 市民会議主催の「名人・達人に聞く会」で先陣を切ったの発表、そして今日の語り部発表とつながってきます。

第 24 期の発表の皆様にも引き続き残って、地域とともに歩む活動の成果を聞いていただきました。

#### 「所沢駅の不思議」

語り部となると大人の講義調は通用しないと講師の方々に示唆をいただいたとのこと。小学校に出かけて児童の前で話すことも想定しての発表でした。

これまで私たちのサークルでは数回、同様の内容の発表を聴講していますが、以前と比べて、ずいぶん柔らかく、質問やクイズの話法をとりいれ、興味を高めるように工夫されていました。

今回はテーマを、所沢駅に絞ってありました。

川越鉄道の開通から武蔵野鉄道～現在の西武鉄道と時代の変遷に伴う役割の変化等を大正・昭和年代の多くの写真と資料を掲載したパワーポイントを駆使してわかりやすく語り部らしく披瀝していただきました。見ている人を飽きさせない巧みな演出であったように思います。

今まで西武のマークは意識して見たことがなかったのですが、その意味を説明してもらって、これからはマークを見るたびに思い出すかもしれません。

最後に、所沢の未来への展望ともいうべき所沢駅東口の駅ビルを建設中、2 つのパーツに分けた工事が進んでいて、春には一つパーツが完成するということで語りを締められました。 3 月 3 日の新聞を開くと、駅ビルの一つのパーツが完成し、商業施設「グランエミオ所沢」として一部店舗が前日の 3 月 2 日開店し、大盛況であることが報道されていました。

来年は航空記念公園内に胸像のある所沢飛行場ゆかりのフォール大佐が大正 8（1919）年 1 月、63 名のフランス航空教育団長として来日してから 100 年になります。フランス大使館からも関係者が出席され記念式典が開かれるように聞いています。

当サークルは第 16 期のグループワークの発表会メンバーをはじめとする有志によって発足しているので、「所沢の飛行場開設 100 年」のグループワークのリバイバル発表会も検討したいと思います。

本日の発表会に全面協力いただいた第 24 期修了 所沢地域史グループの皆様には中身の濃い、素晴らしい発表をしていただき、本当にありがとうございました。同じ所沢市史を学び、たのしむパートナーとしてコミュニケーションを続けられればと思っています。

発表を見て、市民大学時を思い出すとともに世阿弥のことは「初心忘るべからず」一つ目の本来の意味を思う次第です。

担当：C グループ

（粕谷昇・原正次・佐野弘太郎・山本苗子・関根平三郎・平野公子・大舘徹・小川雅愛）